

マタイ 24

苦難の意味を 知ってこそその信仰を

マタイ福音書9章18～26節 長血の女の癒し 少女の蘇生

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. 会堂司の嘆願 9:18～19

II. 長血の女の癒し 9:20～23

III. 生き返った少女 9:24～26

IV. まとめと適用

苦難の意味を

知ってこそその信仰を!!





0. イントロダクション

カペナウムの再現図

メシアの生涯

宣教

→ 拒絶

→ 弟子訓練

→ 十字架へ

メシアによる
メシアの証明

宣教開始

弟子の召命

荒野の誘惑

バプテスマ

メシア的奇跡

安息日(律法解釈)論争

ベルゼブル論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晩餐



マタイ福音書によるメシアの生涯 (時系列より内容重視)

	章	時代	おもな内容
出生	1~2	誕生	エレミヤの召命
大衆伝道 (公開)	3~4	宣教の開始	バプテスマ、悪魔の誘惑、ガリラヤへ
	5~9	宣教	山上の説教(5~7)、 メシア的奇跡(8~9)
	10~12	衝突	12弟子の派遣、 ベルゼブル論争
	13~20	弟子訓練	たとえ、信仰告白、山上の変容
	21~25	最後の論争	エルサレム神殿での最終論争
弟子訓練 (限定)	26~27	受難	最後の晩餐、裁判、十字架と葬り
	28	復活	復活、弟子たちへの最後の命令

サンドイッチ構造

■ 起こった順番が、そのままサンドイッチ構造に!!

会堂司の娘の癒し

長血の女の癒し

会堂司の娘の癒し



互いの出来事が引き立てられて、より印象深く!!



Ⅰ. 長血の女の癒し

マタイ福音書9章18～26節

本編 会堂司の嘆願 マタイ9:18

イエスがこれらのことを話しておられると、見よ、一人の会堂司*が来てひれ伏し、「私の娘が今、死にました*。でも、おいでになって娘の上に手を置いてやってください。そうすれば娘は生き返ります」と言った。

*ヤイロ(マルコ5:22)


*「死にかけています(マルコ5:23)」

…最後の時 = 臨終の時(死ぬ間際or死)

■ エリヤやエリシャのように、イエスには、娘を癒やす力があると信じた、会堂司。



本編 会堂司の家へ マタイ9:19



そこでイエスは立ち上がり、彼について行かれた。弟子たちも従った。



II. 長血の女の癒し

マタイ福音書9章20～22節

本編 長血を患う女 マタイ9:20

すると見よ。十二年の間**長血***をわずらっている女の人が、イエスのうしろから近づいて、その**衣の房***に触れた。

***出血**を伴う女性特有の病気。

…律法は、**けがれ**として隔離を義務付け

…治療費で破産。病気は悪化(マコ5:26)

***主の命令(律法)**を思い起こすための**房**。

ツイツイオット。律法(民15:38)に命令。



本編 女の確信 マタイ9:21

「この方の衣に触れさえすれば、私は救われる*」と心のうちで考えたからである」

*ソーゾー…救う、癒やす、直す

➡彼女が願ったのは、どの段階の癒し？

■房は、律法、神の約束、御言葉の象徴。

➡すべて実現するのが神の約束の御言葉。

■神の言葉のままに世界がなったように、聖書預言の体現者であるメシアには、どんな病も癒やす力があると信じた。



言葉を越えた
体感的確信!!

並行記事

癒しの瞬間 マルコ5:29～30

すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされた*ことをからだに感じた。

イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき*、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」

*根源的な癒やしが、即起こった。

■この鋭敏さ、繊細さは、罪なき身だからこそ？
誰も主イエスの目を逃れられない。

(※主のもとで嘘をつき続けたユダの鈍重さ)



並行記事 群衆の中で マコ5:31～33

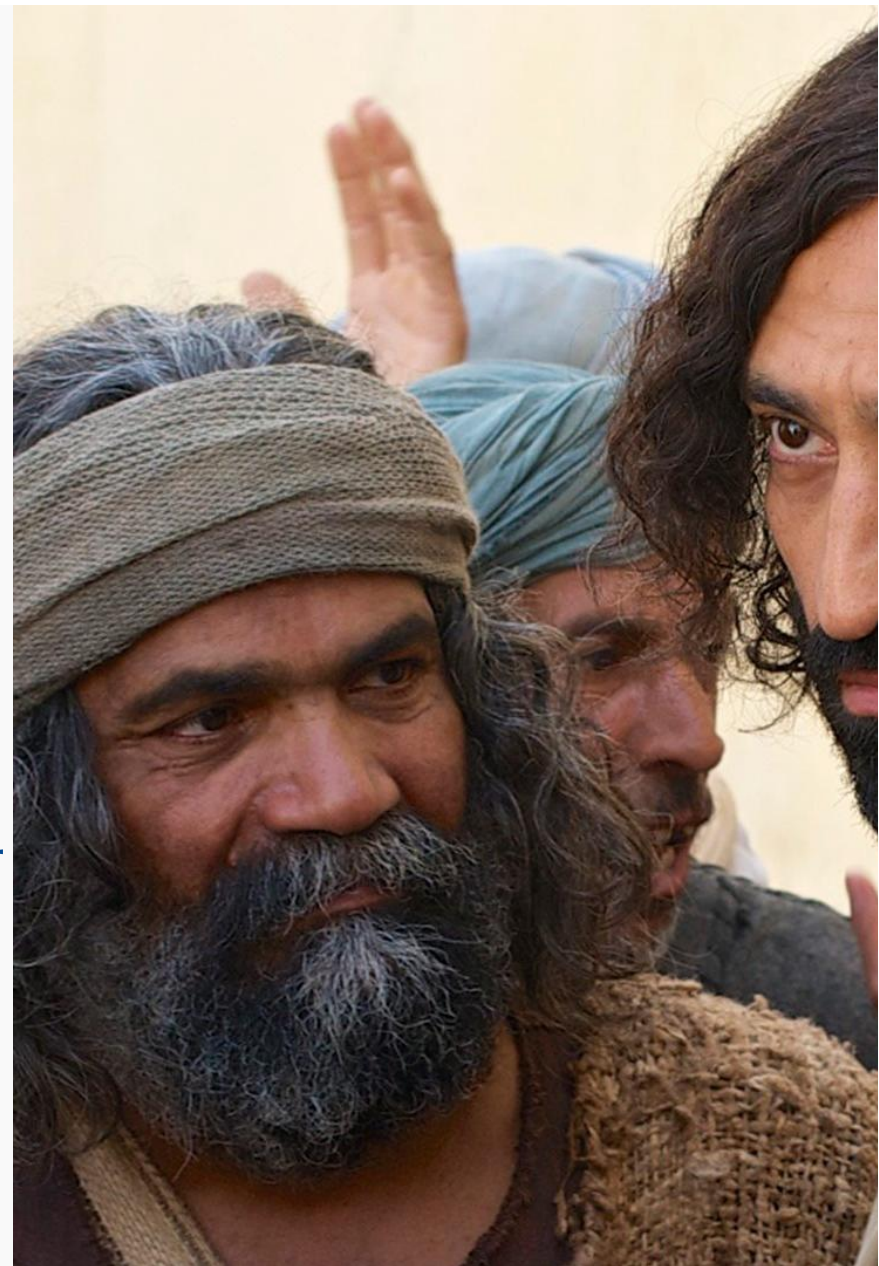
すると弟子たちはイエスに言った。

「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか」

しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知らうとされた。

彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。

誰も主の目を逃れられない!!



本編 メシアの宣言 マタイ9:22

イエスは振り向いて、彼女を見て言われた。
「娘よ、しっかりしなさい*。あなたの信仰が
あなたを救った*のです。」すると、その時から*彼女は癒やされた*。

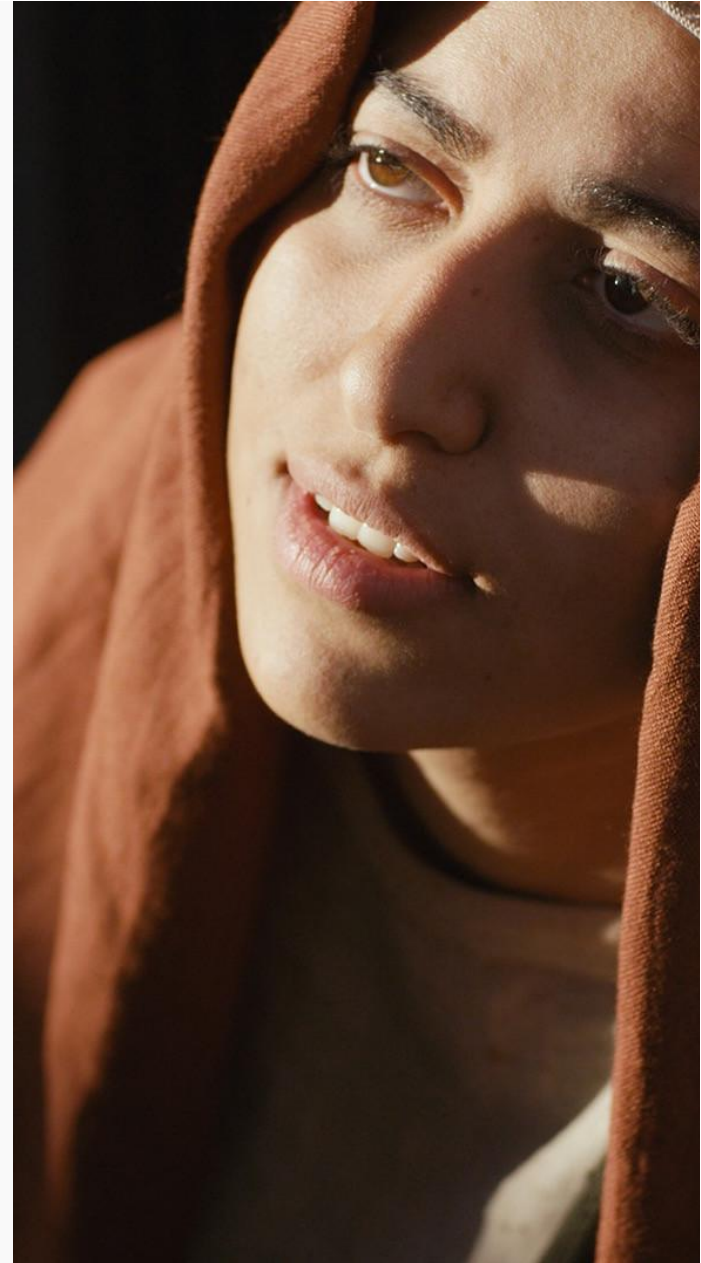
*「苦しむことなく、健やかでいなさい。

マルコ5:34」

*香油の女(ルカ8:48)、盲目の男(マコ10:52)

*メシアの公的宣言。永遠の全的回復!!

*どちらも“ソーゾー(救う、癒やす)”





Ⅲ. 生き返った少女

マタイ福音書9章23～25節

カペナウムの湖畔

本編 会堂司の家で マタイ9:23～24

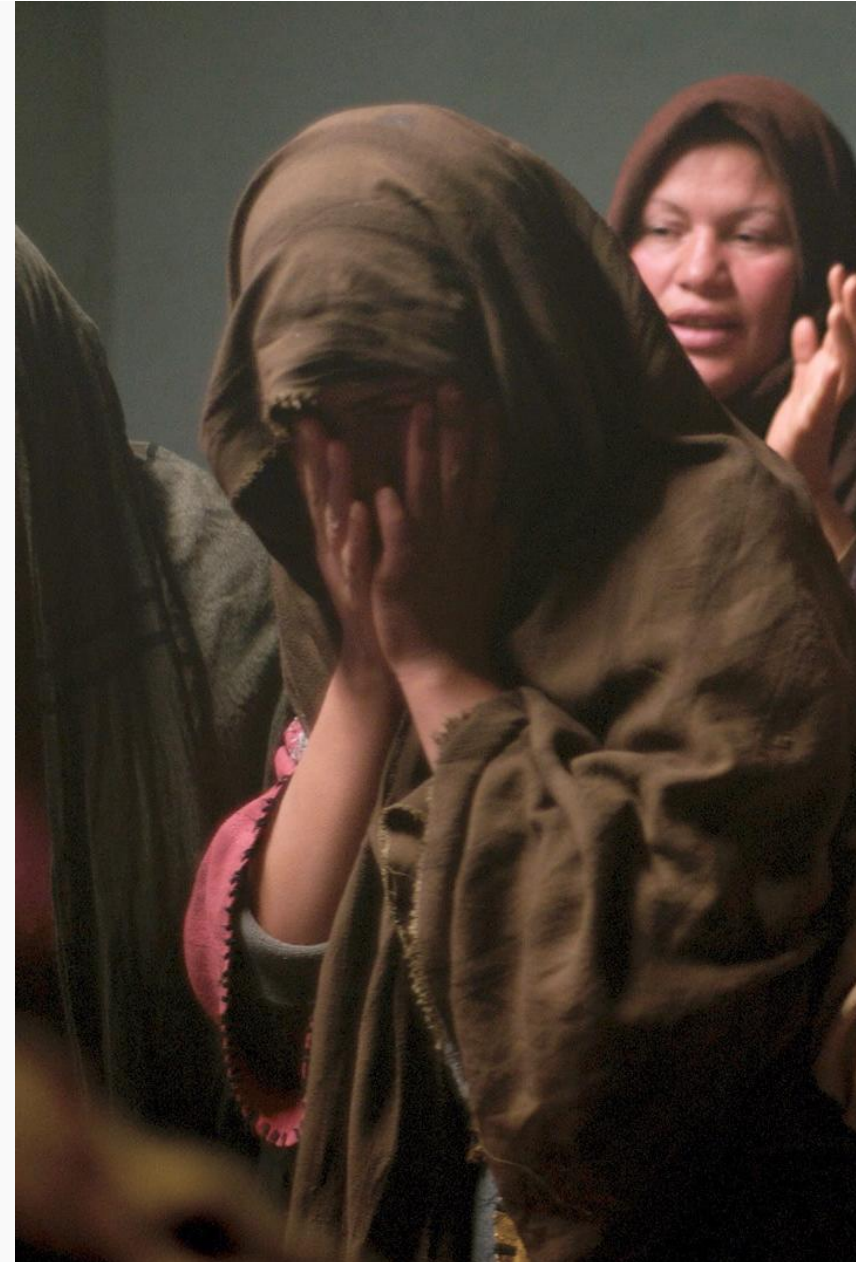
イエスは会堂司の家に着き、**笛吹く者たちや騒いでいる群衆***を見て、

「出て行きなさい。その少女は死んだのではなく、**眠っている***のです」と言われた。人々はイエスをあざ笑った。

*葬送の音楽、泣き女も。…弔いの慣習

*明らかに死んでしまっているのだけれど

➡生き返りを確信している**主の視点**



本編 少女の蘇生 マタイ9:25～26

群衆が外に出されると、イエスは中に入り、少女の手を取られた。すると少女は起き上がった*。

この話*はその地方全体に広まった。

*「タリタ・クム(マルコ5:41)」

少女の日常語はアラム語だった？

*二つの癒やしは、おそらくセットで。





Ⅲ. まとめと適用

苦難の意味を知ってこそその信仰を

ガリラヤ湖畔

律法の定める けがれ と きよめ

「女に漏出があり、漏出物がからだからの血であるなら、彼女は七日間、月のさわりの状態になる。だれでも彼女に触れる者は夕方まで汚れる。レビ記15:19」

→触れた物、人、みな、きよめの期間が必要に!!

→8日目に、二羽の鳩をささげ、祭司からきよめを受けた。

■長血を患う女は、12年間、隔離生活を余儀なくされた。

…出産、生理の隔離を前提としたのが**当時の家屋***だが。

けがれときよめの規定が 教えること

「あなたがたは、イスラエルの子らをその汚れから離れさせなさい。彼らが、彼らのただ中にあるわたしの幕屋を汚し、自分たちの汚れで死ぬことのないようにするためである。レビ15:31」

- 神は絶対的にきよい方。いかに些細な罪とも同居し得ない。
→ 契約の箱に触れて即死。異なる香を焚いて絶命。
- 神に近づくには、神の定めたルールに従うしかない → **律法**
神が定めた罪のきよめが必須。

長血を患っていた女が求めたもの

■ 12年間の苦しきは、体の癒しで帳消しになる？

例) 冤罪が晴れても、失われた時間は戻らない。

■ 女の求めは、体の癒しを越えたもの。→**救い**

■ 神から断絶された、地上の苦難は、どこまでも不条理。
この苦難の体験が、私たちの願い、求めを深めさせる。

→**肉体を越えた癒やし、死を越えた救いへ**

長血を患っていた女が握りしめた 服の房

■律法の規定 民数記15:38～40

「イスラエルの子らに告げて、彼らが代々にわたり、衣服の裾の四隅に**房**を作り、その隅の**房**に青いひもを付けるように言え。

その**房**はあなたがたのためであって、あなたがたがそれを見て、

【主】の**すべての命令**を思い起こしてそれを行うためであり、淫らなことをする自分の心と目の欲にしたがって、さまよい歩くことのないようにするためである。

こうしてあなたがたが、わたしの**すべての命令**を思い起こして、これを行い、あなたがたの神に対して聖なる者となるためである。

長血を患っていた女が信じたこと

- 女が救われると握りしめたのは、メシアの服の**房**。
 - ➔ **房**は、神の**律法**の象徴。神の**約束**、**御言葉**の象徴。
 - ➔ すべて実現するのが、神の**約束**の御言葉。
- 「光あれ」 神の**言葉**のままに世界がなったように、**聖書預言**の**体現者**であるメシアには、
どんな病も癒やす力があると信じた。

主の御言葉なるメシアには、力がある

今の時代に罪をきよめ、救いに至る唯一の方法

■ 罪の贖いを成し遂げられ、
復活された主イエスを信じること。

主イエス・キリストは、私の罪のため、
十字架で死なれ、葬られ、死を打ち破って復活された。

■ この福音を信じるならば、私は救われる。

福音こそ、今、私たちが握りしめるべき、房

神のいのちのことはなる 栄光の主イエス・キリスト

■ ヨハネ福音書1:1~5

初めに**ことば**があった。**ことば**は神とともにあった。

ことばは神であった。

この方は、初めに神とともにおられた。

すべてのものは、**この方**によって造られた。造られたもので、**この方**によらずにできたものは一つもなかった。

この方には**いのち**があった。

この**いのち**は人の**光**であった。

光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

★ 苦難の意味を知ってこそ ★

■ 苦難の体験が、私たちの願い、求めを強めさせていく。

人の罪と悪への洞察が深められ、主イエスの救いの真理を知る。

■ 律法は、民に罪を教え、主の恵みの大きさを思い知らせた。

罪を突きつけられては打ち砕かれ。ただ主にすがって歩む中で、私たちの信仰は成長させられていく。試練は信仰者に必須だ。

■ 12年の苦難を経たあの人は、どれほどの恵みを味わわされたか。

すべての苦難を祝福へと変えられる、主だけを信頼しよう

てん とう わたし つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください

わたし かみ こ しゅ
私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

わたし つみ あがな じゅうじか し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

しゅ あい こ わたし くんれん
主は、愛する子として、私たちを訓練されます。

よ くなん いみ しゅ してん み
世の苦難の意味を、主の視点から見いだすことができますように。

えき わたし い ちから
すべてのことを益として、私を癒やし、力づけてください。

くだ こころ し わた めぐ わたし つか
砕かれた心に染み渡った恵みをもって、私たちを遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」